

狩勝高原園地の潜在的魅力と活用手法を探る！

昨年度の基本構想を経て、今年度は、単なる一つの公園整備としてとらえるのではなく、狩勝高原園地を核として新得町全体に波及効果をもたらす取組みとなり、町民とともにある場作りをすることを目指しています。

日時

平成23年

9月27日

場所

狩勝高原園地

サホロ酒造事務所2階会議室

開催概要

第一回目のワークショップは、園地を見学し現状を共有した上で、プロジェクトに関わる説明と、参加者の皆様と意見交換を行い、狩勝高原園地の潜在的魅力と今後の活用の手法について探りました。

園地見学



梅林の現状を皆で見え回りました。凍雪の影響で当初の2500本から淘汰され、現在では1000本あまりに減っているそうです。今後の、梅の管理も課題です。



現在あまり活用されていない水車小屋や、園地内に流れる小川を見て回り、今後活用できそうな施設や環境をみんなで共有しました。

プロジェクトに関わるご説明



本プロジェクトの現状や、これまでに行ったアンケートやヒアリングなどをまとめ、課題となっている事や今後の可能性などを確認しました。

意見交換

グループに分かれて意見交換を行いました。狩勝高原園地単体ではなく、新得町として、周辺地域との関わりなどさまざまな角度から議論をし参加者の皆さんそれぞれに想いを持っていらして、今後につながる意見が沢山できました。

場所の持つ価値は高い、それをどう繋ぎ、どう伝えていくかが今後のカギを握る。

新得町全体

新得の財産とも言える自然、景観、食、温泉、いいものはたくさんある。

周辺施設との関わり

トロッコやウエスタンビレッジや、サホロリゾートなどすでに活動している民間が近隣にいくつもある。

狩勝高原園地

ここ狩勝高原園地には町民も知らない良さが沢山ある。もったいない。

自然が素晴らしい。明るい森もあり、散歩道としても気持ちいい。

ここには日本最北の梅林や、古く趣深い桜があり、花の季節は見ごたえある。

使っていない水車や展望台の復元、サホロリゾートからの散歩道、既存の物を上手く活用できれば可能性が広がる。

隣接した焼酎工場も新体制に変わるのを機に連携していきたい。梅林を活用し梅酒を作るなどできるといい。

利用者層を明確にした計画が必要。

アプローチ

サホロリゾートの散歩道などがあるが、今のままでは国道を渡るのは難しい。

入口の看板も見にくく、国道沿いに雑木や草が生い茂り、中になにかがあるの園地への入口は通り抜けできるように2カ所は必要。

食

景色のいいところでのんびり食が楽しめるところがあるといい。

広大なスペースにそばや花を植えて、その中心部にウッドデッキを設置して少人数でお茶するなど贅沢な空間があるといい。

新得町は福祉の町と呼ばれ、鞆酒の方が多く住んでいるが、味覚や視覚による楽しめるものが必要。



バラバラの施設を上手くつなげるには、動線の整理が必要。

ドライブの途中で立ち寄れるきれいなトイレがあるといい。

小川を利用して子どもが楽しめる所や、ピオトーナのような学習の場があると、小学校の遠足などで利用しやすい。

歴史

旧国道沿いにはずっと桜並木が残っている。今では道はないが、桜の並木だけは、国道を走っていても見える。その道を古道として小径ができるといい。

旧狩勝線の雰囲気はこの持つ魅力のひとつ。トンネルや線路など旧狩勝線の雰囲気を園内に活用できればいい。旧狩勝線にちなみ鉄道資料館の設置。歴史の勉強ができる場所が欲しい。

ここにしかないもの、ここでしか出来ないことなどの唯一性が必要。

見どころ

春の桜や梅以外の時期の魅力作りは必要。

春、夏、秋を通して花を見せる。

季節や天気にあわせた活用法が必要。

整備手法

旧国道の桜並木整備を青年団で行った素晴らしいストーリーを引き継いで行く。

ただ整備するのではなく、持続的に活動できる手法を用い、その活動自体が新得町を象徴するようなものにしていく。



次回（第2回WS）はこれらの意見をもとに計画素案を提示し、意見交換いたします。

新しい参加者も募集していますので、ふるってご参加ください。日時については、追ってお知らせいたします。

お問い合わせ

新得町役場産業商工課観光係

市川 0156-64-0522

高野ランドスケープデザイン（株）

赤嶺 0155-42-3181